

ウェルビーイングの向上に寄与する建築・まちづくりに関する研究

ウェルネス作業所と関内大通り公園エリアにおける実証実験

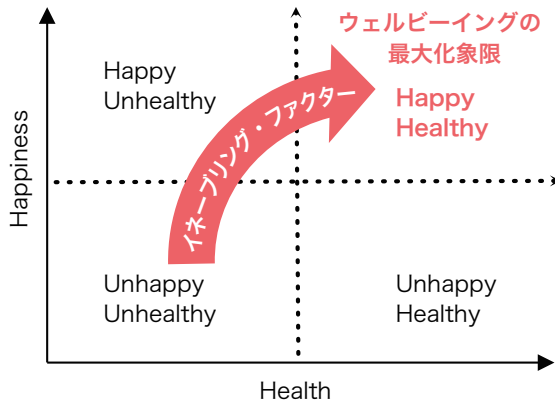


佐藤 大樹*1・出口 亮*2・小林 洋平*3・渡辺 広道*4・大迫 真里子*4・片岡 公一*5・鈴木 伸治*6・秋元 康幸*6・西井 正造*6・武部 貴則*6

Study on Architecture and Urban Development Improving Well-being

Demonstration Experiments on a Construction Site and at Odori Park

Taiki SATO, Ryo DEGUCHI, Yohei KOBAYASHI, Hiromichi WATANABE, Mariko OSAKO, Kimikazu KATAOKA, Nobuharu SUZUKI, Yasuyuki AKIMOTO, Shozo NISHII and Takanori TAKEBE



HappinessとHealthの双方を高める
「イネープリング・ファクター」の概念図

- HappyかつHealthyと感じると申告のあった地点
- HappyかつUnhealthyと感じると申告のあった地点
- UnhappyかつHealthyと感じると申告のあった地点
- UnhappyかつUnhealthyと感じると申告のあった地点



関内大通り公園エリアで収集したデータ例

（実証実験参加者から、ウェルビーイングに影響する空間であると主観申告のあった地点とその感じ方）

研究の目的

昨今、高齢者の医療・福祉、健康増進、ABW(Activity Based Working)・働き方改革・エンゲージメント、健康経営等、私たち一人ひとりの心や体に関連するキーワードが注目を集めるようになり、建築・まちづくり計画において配慮が欠かせないものとなっています。これらのキーワードが共通して目指す姿として、肉体系、精神面、社会面から良好な状態を示す「ウェルビーイング」があり、スマートシティ等の次世代の街づくりにおいても主要なビジョンと位置付けられています。そこで、ウェルビーイング向上に寄与する建築・まちづくり手法の確立を目的とし、社内外の共創パートナーと共に実証実験を行いました。

技術の特長

これまでのヘルスケアでは、まず客観的ウェルビーイングである健康(Health)を高めることで、結果的に、主観的ウェルビーイングである幸福(Happiness)も高まると考えられてきました。それに対し、著者らは、HappinessとHealthを同時に高めることのできる因子である「イネープリング・ファクター」が、人々のウェルビーイングの向上に必要であると考えました。そこで、ウェルネス作業所での作業員へのアンケートと、横浜市関内大通り公園エリアでの学生や市民へのアンケートの2つの実証実験によって、多くの人々が共通してHappyかつHealthyと感じる空間を探索しました。

主な結論と今後の展開

実証実験から収集したデータをHappyとHealthyの2軸から整理することで、複数の人が共通した感じ方を申告をする空間を見つけることができました。また、Happyと感じる空間の多くがHealthyであるとも認識されていることがわかり、イネープリング・ファクターのアプローチの有効性が示唆されました。今後は、アンケート調査を様々なエリアに積極的に展開し、多様なデータを蓄積し分析することで、建築・まちづくりに係るイネープリング・ファクターを、設計・計画技術として確立していく予定です。

*1 技術センター インベーション戦略部 技術開発戦略室
*2 設計本部 先端デザイン部
*3 都市開発本部 新事業推進部
*4 横浜支店 営業部

*5 (株)山手総合計画研究所
*6 横浜市立大学